

十神山



# 会報 安来節

YASU GI BUSHI

発行所 安来節保存会

〒692-0064  
島根県安来市古川町534  
TEL 0854-28-9988  
FAX 0854-28-9393  
http://www.y-hozon.com/  
E-mail:admin@y-hozon.com

## 私と安来節

### 資格審査長に就任して



資格審査長 渡部孝夫 (本部道場)

民謡初の全国メジャーとなった安来節は、今でも民謡愛好家に全国で知られています。しかし、趣味の多様化によって、発祥の出雲地方も安来節を学ぶ人が少なくなってきました。保存会会員の減少も最盛期の約半分に減少しています。このような状況の中で資格審査長を拝命し、どのような役割を果たせばよいか思考の毎日です。

考え付いたのが安来節の振興です。と言ってもその策があるわけではありませんが、歴史の中から整理してみました。  
一 人気のあるところの安来節は、演じる人は観客の目を特に注意して、日夜芸の向上に努めた。  
二 観客は自分の安来節観をもって、ひいきをつくって応援していた。

### これからの安来節



資格審査員 濱崎正人 (静岡支部)

この度、安来節保存会より資格審査員にご推挙頂き、身に余る光栄と存じ、その責任の重大さに身の引き締まる思いでございます。平成十四年から指導部員を拝命し、今日まで十八年間、指導部員として学ばせていただきました。今後は、指導部員としての役割に繋げていきたいと思っております。会員の皆様の変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

さて、庶民の唄として生活の中で、はぐくみ育てられた安来節。明治・大正・昭和・平成と歴史を重ね、昨年度から新しい令和

この二つの状況から、舞台と観客が一体となっていたことがわかります。いま一つは、安来節保存会の会員の構成です。昭和二十五年頃の名簿を見てみると、全国で舞台活動している人と、地域で唄自慢として知られている人が多くいます。時代は変化して、長寿社会になるとともに、安来節は趣味として選択する人がほとんどになりました。これは、指導者と安来節の高いレベルを保つためのリーダーが不足することが心配されます。この対策として次のようなことが考えられます。

- 一 安来節の歴史を学習して、安来節の本質的な魅力と表現を学ぶ。
- 二 指導者育成のため、基礎学習を進める。
- 三 指導を受ける者に、わかりやすい指導内容を確立する。

これらの対策は、安来節のレベルを上げていくことと、周りの人たちの関心も引き付けることが期待できます。技量の上述は会員であればだれも持つ意欲ですが、変化していく安来節保存会員構成に対して指導のあり方も変化に合わせたわかりやすい指導が求められます。資格審査についてよく聞くことが、審査の基準についてです。九人いる審査員は、それぞれの感性で審査し、それは独立性が

の時代へと移り変わって参りましたが、その安来節もブームが去った後、長年に亘り低迷期が続き、今、安来節保存会の最大の悩みでもある会員の高齢化や若年層の減少という厳しい状況下にあります。このような厳しい状況の中、今後これからの安来節を保存会会員一人一人がどう展開して行くべきか、今後の伝承の行方を模索し、日々精力的に活動して行かなければなりません。安来節保存会の全体の平均年齢は六十代後半と聞いております。この事から考えていかなければならない事は、まずは高齢化対策だと思えます。今、日本人の平均寿命が延びている中で昔と違い七十代、八十代の年齢でもまだまだ頑張れる環境作りと体制作りを、また障がい者でもチャレンジ出来るような安来節であってほしい。また一方では、若年層の普及活動をありとあらゆるルートを探り意欲的に展開し、後継者の育成に繋げて行く事だと思えます。さらには経済的な対策が必要になってくると思えます。安来節がメジャーになり、全国に数多くの支部ができ、年数を重ねると同時に多くの准師範、師範が誕生します。安来節保

高いものである。基準を一覧にできるものはありませんが、師範審査後、直接希望する本人に成績を出るだけ説明する機会をつくることを検討しています。

これは、指導者の養成で掲げた三項目と連動する内容です。これからの安来節保存会の指導者を考えてみた場合、准師範が師範に登用される人数を見れば、将来は非常に不安があります。准師範の研修を実施すると同時に研修内容の充実を図り、新しい時代を担っていく指導者の養成が急がれることを強く感じます。

特にこれまでの指導のように、「技量を示し、この通りにしなさい」。私もこんな指導を受けた一人ですが、上達に時間がかかり、稽古を継続できる人でできない人にはつきり分かれてしまいます。習う人が理解し納得するような指導が必要で、納得すれば次のステップに進めるからです。安来節保存会の発展は、会員一人一人の情熱にかかっています。情熱を持つための保存会運営が、これからの大きな課題だと感じています。中でも支部の運営は、一つの企業と同じです。人が働きやすい環境(雰囲気)をつくり、グループが楽しく結束していけることです。給料を払っていないので統制がとりにくい支部運営ですから、企業より難しいと思います。

以上のことは、何一つ容易なものはありませんが、私の目標として掲げ、資格審査長就任に当たり会員の皆様のご理解ご協力をお願いいたします。

存会の年間行事である「唄い初め会」、「お糸まつり」、「師範昇格審査会」、「全国優勝大会」等々、すべて遠く県外から通い続ける事は、年金暮らしの高齢の方は少々経済的に辛い部分があるとよく耳にします。特に師範昇格審査会の場合、昇格率の低下が取り沙汰されておりますが、准師範の方が数回あるは十数回チャレンジしても師範に昇格出来ないというケースも少なくありません。アンケートを取ると首都圏の方で師範昇格審査会をという声もあるようです。近い将来そういう事も考えなければいけないかもれませんね。日本全国に数多くの民謡がある中、心の安らぎと潤いを与え、今日まで幾代にも亘って唄い継がれてきた安来節は先人の残してくれた尊い文化遺産であり、今もなお私達の暮らしの中に生き続けております。

これからの安来節も正しく保存継承され、また基本を中心に時代に即応した形で発展普及して行かなければなりません。会員ファーストという考え方を大切に安来節が再びブームをむかえるよう会員の力を結集し、頑張っていこうではありませんか。

### 今、安来節に思うこと



資格審査員 二代目 松尾英興 (松江支部)

この度の役員改選に伴い、資格審査員に任命されました二代目松尾英興でございます。今後とも何卒よろしくお願ひ致します。

歌謡曲などの音楽に親しむ事も無く、安来節という民謡も聞いた事も無かった私が安来節と出合って四十五年になります。振り返って、今思うことは、知人に紹介された師匠、そして多くの諸先生、先輩、後輩の方々との繋がりがあり、その方々に舞台上上がる機会をたくさん与えていただけたからこそ続けてこれたんだと思います。今頭を悩ませているのは、

### 安来節に出逢い、そして今



資格審査員 野々村府美枝 (本部道場)

昭和五十二年に保存会に入会し、今年は四十三年を迎え、月日の流れの早さにあたふたしながらも支えてくださった方々との出逢いに感謝しつつ今日を迎えています。私が子供心に「安来節って凄いな」と思ったきっかけは、故二代目出雲愛之助さんの舞台を見た事からです。当時、小学校の体育館で「二代目出雲愛之助・安来節公演」の幕が上がると会場内は拍手喝采、やがて三味線の音が響き渡ると人々の心を包み込むような張りのある唄声に魅了されつつ、笑顔の中にキラリと光る金歯、そしてゆとりのある表情の愛之助さんの唄声でした。プロ中のプロという事は、私が保存会に入ってからわかった事です。さすが、子供心にも強く印象に残ったわけですね。

やがて時が経ち、父の勧めで家元三代目お糸さんに師事する事になりました。当時、高齢な三代目お糸さんは、ベッドに座り、私の唄声にジーンと耳を傾け、聞き入ってくださっていた姿は今でも忘れ

られません。三代目お糸さんの亡き後、姉弟子の雲津皆江(三代目お糸さんの娘)さんから、「以後、野坂亮利先生に預けたい」と言う事で、どの様な方かも知れず、お宅に伺い、教えを乞う事になりました。野坂先生は、気さくなものの言い方、人情味のある方でしたが、いざ三味線を手にとられると音色の凄さに驚嘆しつつも思い切り唄える楽しさ、嬉しさを味わわせて頂き、三味線の持つ力の醍醐味を知らされました。

年々支部数と会員数が減少していること、何か良策はないかと思っております。現在は、若者の音楽志向も変わり、なかなか民謡には興味を持ってもらえないですが、嘆いてばかりいる訳にもいきません。安来節は、旅館やホテル、お祭りをはじめ海外公演等でも披露される素晴らしい伝統芸能であり、安来市の無形民俗文化財にも指定されておりますので、後世に継承して行かなければなりません。その安来節で独特な唄い方、俗に言う「あんこ入り」という唄い方があります。全国の民謡を安来節の唄と唄の間に織り込んで唄う唄い方で、他にはないものだと思います。しかし現在、この「あんこ入り」の唄い方で三味線の出来る方が少なくなつたように思います。この三味線の出来る方を育てる必要があると思えます。また、どうしようもない女踊りを出来る方も少なくなつた、このままでは女踊りが無くなつてしまつたのではないかと危惧しており、今後とも考えて行かなければならない問題だと思っております。

そして新しい出逢いの始まりです。他方面に出向かせて頂く度に改めて安来節が全国三大民謡の一つである事を一層強く深く感じ、やがて平成二十年に指導部員としてのお役目を頂き、大勢の方々との交わりも多く、各方面に出向く度に「安来千軒 名の出た所」と、全国各支部の方々や堂々と安来節を自分の唄として唄っておられる姿に感謝、感動させて頂いております。

この度、安来節保存会会長の近藤宏樹様より「資格審査員」の命を受けました。趣味で唄ってきた安来節、今では生きがいとなりまして。今後一層、安来節が普及発展していくためにも、これまでの歴史を紐解きながら、それぞれの部門の基本を大切にしつつ、指導部の方々と共に力を合わせ、取り組んで参りたいと思えます。そして、楽しく唄える事、演奏できる喜びを共感して参りたいと思えます。会員の皆様、今後とも、ご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

これからの安来節



指導部長 原 淳文 (北陽支部長)

この度の役員改選により再度指導部長に就任させて頂く事となりました。改めて責任と緊張感を持って、指導部一同、会員の皆様方のために何をすべきか、何が出来るのか、全力を尽くし努力いたします。

安来節との出会い



唄 准名人 森 廣 治 恵 (本部道場)

この度、安来節保存会より唄准名人位を戴き、身に余る光栄であります。これも偏に先輩の先生方、そして関係者の皆様の御支援の賜物と深く感謝申し上げます。

安来節は、昔からよく聞いて育って来ました。地区の会合や祭りのあと、また仕事が終わると我が家で一杯飲み、やがて近所にも気兼ねせず腹の中から思いっきり大きな声を出して唄い、そして安来拳が始まり、大人達は子供に返ったような、はしやぎようで笑っていました。その時のみんなの楽しそうな笑顔は何とも言えず忘れぬ事が出来ません。今思えば安来拳も習っておけばよかったです。

せんが、時代時代に合わせて作っていく伝統も必要です。ただ、安来節保存会の現状は、会員の減少、若年層の少なさなど厳しい時代を迎えています。安来節の将来を考える今、会員の皆様の意見をもっと取り入れるべきと考えます。ただただ技量向上のみを考えるのではなく、安来節各部門の基本とは何か、各自が再度足元を見て、原点に帰る時ではないでしょうか。芸に対する作法は、人と接する上で大切な事だと思ひ行動すれば、それが必ず舞台上で出るでしょう。また、人はそれぞれ「桜梅桃李」のようなもの、各自の良さを引き出し、信念、努力、忍耐を持って指導部のなすべき事をする。これが私達、指導部の役割です。そして円滑な世代交代を進める事を考えます。

「唄えたらいいなあ」と思うようになり、四十年前程前に松江市で安来節の公民館活動がある事を知り、そこで現在の師匠でもある丸瀬 宇先生に出会い、一から指導していただきました。礼儀作法、歌詞の意味、唄い方もたくさんあり、奥深い安来節、そしてその魅力も教わりました。私が住んでいる所は、自然に囲まれているので、仕事をしながら山や川に向かい大声で発声練習をしました。始めた頃は、三味線に合わせる事が難しかったり、家庭の事情で思うように練習が出来ず、何度も挫折しそうになりましたが、その度に丸瀬先生に励まされ、続けて来る事が出来ました。今では、家族の理解もあり、色々な所に出させてもらっています。

安来節をしてきたおかげで、全国の多くの方々と知り合えた事が、私の宝である、とても感謝しております。唄を聞いてくださる方々は、この一度きりかもしれないと思ひ、聞いてくださる方々には歌詞の内容が上手に伝わるように味のある安来節を心掛けています。安来節は、みんなを笑顔にし、人の心も豊かにしてくれます。これからも安来節を誇りに思い、先人が楽しんでたように、多くの方々と楽しみたいです。微力ではありますが、安来節発展に努力させていただきます。今後とも変わりますが、ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願ひ申し上げます。

ねんりんピック和歌山大会にて最優秀賞受賞



会報58号でもお知らせいたしましたが、第32回(令和元年度)全国健康福祉祭(ねんりんピック)和歌山大会の民謡部門において、唄：岩佐光恵さん、絃：岩佐勝雄さん、鼓：吉野和夫さんで出場された安来節が最優秀賞を受賞されました。また、この功績に対して、会長(安来市長)から感謝状と金一封が贈られました。受賞されたお三方より頂いた喜びの声を掲載させていただきます。



ねんりんピック 民謡交流大会に参加して



岩佐光恵 (本部道場)

全国から一万人もの高齢者が集う「ねんりんピック和歌山大会」、鳥根県からは一二名の選手団が参加しての開会式は、壮大なイベントであり、そのスケールの大きさは目をみはるものがありました。そして私達安来節チームは、有田市で開催される民謡交流大会に参加させていただきました。当初は県の代表という事のプレッシャーを感じていましたが、出発前に鳥根県知事の前で大会当日唄う歌詞「鳥根見どころ 荒波しぶき 神楽太鼓に安来節」の素唄と「安来節聞こし召さんと 八百万の神の 十神お山に集り給うは 他国の神無月」の字余りを唄い、激励を受けました。鳥根を、そして安来節をしっかりとアピールしようという気負いのない気持ちで一生涯唄おう

感動の民謡 交流大会



岩佐勝雄 (本部道場)

安来節保存会に入会してから早いもので十七年経ちましたが、この度「ねんりんピック和歌山大会」の民謡交流大会に参加させていただく機会に恵まれました。そしてこの大会で安来節が見事「最優秀賞」の評価を受け、三味線伴奏者として夢のような感動をすることが出来ました。また、舞台での伴奏は横並びでなく、唄う姿を横から見ながらの演奏でしたので、間の取り方など、非常に弾き易かったことを感じました。

と悪い舞台に立ちました。審査の結果は、全国の数ある民謡の中で安来節が最優秀賞の金メダルを頂くことになり、この上ない喜びと誇りを感じることが出来ました。私は、安来節の特徴でもある唄、絃、鼓が一体となって、聴く人の評価を得られたものと思ひました。また、この度は民謡が十一年ぶりに開催されたこともあり、この大会で安来節が全国一の評価を受けた事で余計に嬉しさが込み上げてきました。そして大会に参加するに当たっては、本部道場や保存会事務局など、たくさんの方から激励をいただき、また家元四代目渡部お糸さんからも指導を受け大会に臨みました。結果として、保存会の会長であります安来市長をはじめ、会員の皆様に良い報告をする事が出来た事が何よりと思ひました。また、大会の会場等では安来節保存会和歌山支部の皆様大変お世話をしていただき、緊張する事なく大会に臨む事が出来ました。紙面をお借りし、厚く御礼を申し上げます。

ねんりんピックに参加して



吉野和夫 (本部道場)

十一月八日、私達民謡の出場者と応援で同行する私の妻を含め四名は選手団とは別行動で、自家用車で一路開催地の和歌山県へと出発。宿泊先のホテルは安来節保存会和歌山支部の皆様のご厚意で和歌山城を目前にした豪華なホテルを予約して頂き、大変助かりました。

翌日九日は好天の元、和歌山市紀三井寺公園陸上競技場で開会式が盛大に行われ、その規模と開催地の熱意に圧倒された。民謡大会の会場は有田市の市民会館で、行われる為、会場の下見後、十日、いよいよ大会当日。六十二名の選手により最優秀賞の争奪戦が開始され、緊張感で息が詰まりそうになる。北は若手県から南は鹿児島県奄美大島からの参加者もあり、得意とする地元の代表的な唄を発表されていた。また、唄に合わせて伴奏される地方の尺八、笛、三味線、太鼓の素晴らしい、和歌山県民謡連合会の皆様方の連携プレーが見事に生かされていると感心した。この大会では、出場者の中から最高齢者、高齢者の方に特別賞が授与され、ねんりんピックらしい温かみのある大会と感じた。すべての出場者が唄い終わった後によいよ発表が始まった。審査員特別賞や優秀賞の名前が発表されるが、いつまでもたっても安来節の名前が出てこない。もうこれで終わりがな...と半ば諦めかけていたところ「四十番 安来節」のアナウンス。どこかで聞いた番号と思ひていたら、隣に座っていた妻が「やったー」と声を張り上げていた。前列にいた岩佐光恵さん本人は立ち上がったまま唖然自失状態。表彰式では出場者の皆様方より称賛の拍手の中、最優秀賞を頂き、メンバー共々感動のまま会場を後にした。宿舎では夕食時、同室の女性の方より安来節が最優秀賞を獲得したとの報告をしてもらい宿泊者全員から祝福の拍手を頂き、盛り上がった一夜となった。今回の民謡大会は最優秀賞という素晴らしい成績で終わりましたが、私達夫婦にとっても結婚五十年という節目の忘れられない思い出となった。

# 会員の声コーナー

## 男踊り今昔



三代目 砂川 清  
(米子支部)

男踊りを習い始めた昭和五十一年頃、優勝大会は安来市民会館で開催され、師範・団体戦の時には、超満員の中、白熱した熱唱、熱演に割れんばかりの大声援。師範の踊りの部は、圧巻で躍動感、個性溢れる滑稽さに大感動し、はまってしまいました。また、当時は踊りの人数も少なく、全四十一支部中、男性八十一名、女性二名でした。その後、近くの小川や用水路に行き、泥鰌の習性や蛭の生態観察を実践、特に泥鰌を捕まえて軽く握り「キュー」と鳴くのを何度も検証しました。砂川流は、腹を抱えて笑う所作、動作は無く所作を見て納得、感動して頂く踊りだけに表情、所作に一工夫、二工夫も

知恵を絞らねばならず、拍手を頂くまでは絶えず探究心の研ぎ澄ましが必要でした。当時、温泉旅館の舞台での出演依頼があり、度胸をつけるために多数出演させて貰い、昭和五十六年には師範に昇格させて頂きました。また、鳥取県大山町合同の敬老会出演や高齢者施設への慰問も支部の行事として定着し、活動中です。平成十七年の秋には、大山西小学校の学習発表会があり、四年生に男踊りを指導しました。そして北海道から沖縄までの一年生から六年生が司会進行し、出し物を発表するNHKの「おい日本」という番組に出演しました。男女十八名の有志で舞台狭しと踊りまくり、何人かは逃げた泥鰌を追って舞台から飛び降りる生徒もあり、会場を沸かせました。平成二十年には、大山中央公民館から頼まれ、所子地区老人会の皆さんに「汗入り暮らし今昔」という題で講演をしました。明治、大正からの稲作、畑作、養蚕、畜産や風水害、大火の記録などを話しました。特に所子地区は、昭和二十年七月二十八日朝、京都発大社行きの満員列車が

米軍艦載機のロケット弾と機銃掃射攻撃を受けた「大山口列車大空襲」にも触れました。この地区は、親族に犠牲になられた方が多数おられ、緊張しましたが締めくくりに男踊りに入ると皆さん笑顔になられ、ホッとしました。また、特筆すべきは家元四代目渡部お糸先生との出会いがあり、安来節道中やイベントでの出演、安来節演芸館にも多年に亘り出演させて頂きました。その際、英語圏の体験者の方と友好推進のため、英会話も少し勉強しました。たくさんの方々の出会いは私の宝物です。現在、支部数は六十で踊りの会員は約二〇〇名、その内女性約三〇〇名です。優勝大会会場もアルテピアへと移り、活況を呈しています。終わりに師匠の砂川清師には生涯かけても返しきれない借りと恩があります。令和へと時代も変わり、今後男踊りの継承発展へ日々研鑽を続けて参ります。

## 私と安来節



堀内 育男  
(静岡支部)

私の習い事の始まりは、平成九年に前川流銭太鼓の魅力に誘われ、入会したのが銭太鼓の始まりです。前川先生の創作する心地良いリズムの銭太鼓を楽しませていただいております。前川先生は研究熱心で更なる進歩を求めて銭太鼓発祥の地、島根へと足を運ばれました。そこで出迎えてくれたのが、濱崎正人先生でした。私が静岡に居ながら、島根県を代表する民謡安来節を習えるのもラッキーな出会いのおかげです。そして、平成二十一年にめでたく

静岡支部誕生の運びとなり、本格的なスタートとなりました。私も踊り、銭太鼓、唄、絃と少しずつ挑戦してきましたが、どの種目も容易ではありません。稽古を受けるたびに先生のキャリア、技術、努力の偉大さをひしひしと感じています。年数こそ重ねてきましたが、途中家内の病気の介護、自身の身体の故障などがあったり、まだまだ道半ばではありますが楽しんで学ばせていただいております。安来節に出合えて、人生後期がより豊かになれたと感じています。これからも安来節を伴侶とし、時には慰問活動も含め、励んで参りたいと思っています。



## 東京支部 ファミリア賞を 受賞して



中国 良恵  
(東京支部)

令和元年十一月十七日、東京支部安来節民謡交流会において、ファミリア賞を頂きまして、誠にありがとうございます。多くの方々からお祝いの言葉を頂き、大変嬉しく思っております。私は、庄野先生の娘さんの縁で三

## 歌舞伎座出演を 体験して



鈴木 優子  
(東京支部)

この度、令和元年九月二十六日、東京銀座の歌舞伎座で行われました人間国宝「四世望月朴清十三回忌鼓の会」において安来節で出演し、鼓を打たせて頂きました。このお話を聞いた時は、長唄の望月流名取「望月美優」の芸名を頂いておりましたが、まだまだ鼓の道は歩き出したばかりでこの大舞台に立てるのか足のすくむ思いでした。日頃より、長唄の鼓と安来節の二挺鼓の打ち方、持ち方、調への掛け方や扱いなどに悩んでおりましたが、恩師望月先生より「全ての芸術は同じであり、大切なのは基本、姿勢、息、溜め、間、響です。違いはしっかり使い分けて、安来節は素晴らしい芸術なのだから、あなたはまだまだ未熟すぎるけれど頑張ってください」と励まして頂き、気持ちが固まりました。現在、安来節保存会東京支部に所

属しており、松本文子先生との出会いを頂きました。歌舞伎座では、松本先生の素晴らしい唄と三味線に支えて頂き、無事安来節をお披露目出来ました。憧れの松本先生との舞台は私の一生の宝となり、そして現在歌舞伎座の舞台、テレビ等の第一線で活躍中の地方の先生方、人間国宝の中村吉右衛門さん、兄弟子の歌舞伎役者中村兎太郎さん、大谷友右衛門さん等のお歴々と同じ舞台をふませて頂き、大変勉強になりました。また、棚橋東京支部長様、会員の皆様には温かく応援して頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。当日は長唄の「道成寺」の鼓も打ちましたが、この大舞台を無事務められたのは、安来節保存会に所属させて頂き、審査会、予選会、全国大会等とたくさ

んの修行の場を経験する事ができ、多くの先生方に分け隔てなくご指導を頂いたおかげだと思っております。これからも感謝と基本を忘れず、安来節を精進してまいります。



年半前に三味線を始めました。お稽古に子供達を連れて行くうちに、子供も自然と唄を歌えるようになり、今では唄、三味線、鼓で綴を頂けるまでになりました。先生の勧めと子供達本人の希望で一昨年、昨年と安来での全国大会に出場する事ができ、特に昨年は上の子が三級の絃で優勝、下の子は二級の唄、三級の鼓で準優勝という素晴らしい経験させて頂きました。私自身も入賞は出来ませんでした。本

場の大舞台で絃を弾くという緊張しつつもドキドキの体験をさせて頂き

ておりますので、ご指導をよろしくお願いたします。

支部情報

松江支部 七十年史



上代安夫 (松江支部)

松江支部は、今年で創立七十年を迎えました。私の入会前のことは故人の方々に聞いた話ですが、松江支部史を書いてみました。

昭和二十年九月頃より安来節愛好会として、三原順一、野津二郎、花本國太郎氏ら十四、五名位で活動し、二十一年頃より小畑雄吉氏も加わり活動していったようです。二十二年頃には愛好会とは別に湖北支部が発足し、松尾英興、藤井正則、佐野正氏ら十二、三名位で活動していったようですが、昭和二十五年に高山雅市氏の要請で湖北支部と合併し、新しく松江支部ができ、初代支部長には松尾英興氏が就任したのが始まりでした。昭和三十一年のしおりでは、支部長は熊野英、副支部長は松尾英興となっており、熊野氏は当時の松江市長であり、名誉会員となっておりました。支部の業務はすべて松尾氏が行っていたと松尾氏から聞いていました。三十五年には、支部長が松尾氏に戻り、私は三十六年十二月に入会し、三十七年四月には松江市と共催で、松江お城まつりでの安来節どじょうすくい新人コンクールが始まりました。第一回の優勝者は、唄の部では手結浦(松江市鹿島町)の金坂功氏、踊りの部では安来市の森田要市氏であったことを覚えています。同年十一月には松江支部で病院へ慰問に行きましたが、一緒に行った高山雅市氏が三ヵ月後の三十八

年二月に五十八歳の若さで急逝、芸能界の驚きでした。高山氏は、現在多くの会員が踊っている高山流男踊りの発想者でもあります。同年の六月には二代目出雲愛之助氏の協力により、松江市公会堂(現・島根県民会館)で高山雅市氏追善「全山陰芸能大会」が松江支部主催で行われました。安来節だけでなく浪曲、漫才、奇術等、五十数名の出演者で、大行事でした。翌三十九年に松江市寺町の誓願寺に高山氏の石碑ができ、盛大に除幕式が行われ、その石碑は現在もそのまま残っています。

四十年には支部長が富田徳之助氏になり、新人コンクールにも銭太鼓が加わりました。優勝大会では、四十二年からと五十年からのそれぞれ三年間、団体の部で三連覇を達成しました。五十三年には支部長が小畑雄吉氏となり、平成八年には松江支部発表会が始まりました。平成十二年に、私は昭和四十四年から続けていた会計業務を新役員の方に譲り、支部長も二代目松尾英興氏となり、役員全員が新旧交代となりました。そして発表会等も毎年開催され、平成三十一年から支部長が渡部泰孝氏になり、第二十五回目の発表会も先日開催され、五十八回目の新人コンクールも四月十一日に開催される予定になっています。



令和2年2月16日・25回目を迎えた松江支部 発表会 (松江支部創立70周年)



昭和39年2月22日 誓願寺にて石碑の除幕式



除幕式にて男踊りを披露



昭和38年6月1日 高山雅市氏追善「全山陰芸能大会」



除幕式にて唄を披露する二代目出雲愛之助さんら

事務局からのお知らせ

●資格審査会の延期について

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3月1日～5月24日の師範昇格審査会までの資格審査会はすべて延期とさせていただきます。

会員の皆様の健康と安全を第一に考え判断させていただきました。

なお、延期後の移動資格審査会は本年9～11月、師範昇格審査会は11月29日、12月5日、6日、13日に開催する予定にしておりますが、感染状況によりましては、中止となる場合もございますので、予めご了承ください。

会員の皆様には大変申し訳ございませんが、何卒ご理解いただきますようお願い申し上げます。

●「本部地区師範研修会」

日程変更について

令和2年10月25日開催予定だった「本部地区師範研修会」は、令和2年10月4日に変更になりましたので、お間違えの無いようお願い申し上げます。

この度、故絃名人 二代目安達順吉様のご遺族様よりご寄付がありました。ご寄付につきましては、今後、安来節振興のために活用させていただきます。誠にありがとうございました。

この度、故唄准名人 中本實夫様のご遺族様よりご寄付がありました。

ご寄付につきましては、今後、安来節振興のために活用させていただきます。誠にありがとうございました。

訃報



ここに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。



ここに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

絃名人 二代目安達順吉さん(一〇一歳)が令和二年一月六日逝去されました。昭和八年に安来節保存会に入会され、資格審査長などを歴任され、今日まで安来節保存会に多大なご功績を残されました。

唄准名人 中本實夫さん(九十二歳)が令和元年十二月二十一日逝去されました。昭和二十五年に安来節保存会に入会され、資格審査長などを歴任され、今日まで安来節保存会に多大なご功績を残されました。

令和2年唄い初め会支部競演結果

- |          |       |
|----------|-------|
| 安来市長賞    | 松江支部  |
| 安来市議会議長賞 | 江支支部  |
| 安来市観光協会賞 | 加支支部  |
| 安来商工会議所賞 | 本道支部  |
| BSS山陰放送賞 | 神門支支部 |
| 足立美術館賞   | 益田支支部 |
| 家納喜賞     | 飯南支支部 |
| 安来節演芸館賞  | 大湖支支部 |

感動を呼ぶ 音色と響き 丹念な加工 調整 仕上げ

(有)仁木三味線

製造・販売/修理 三味線・鼈甲撥・尺八・太鼓

〒240-0022 神奈川県横浜市保土ヶ谷区西久保町197-1

TEL 045(713)4319 FAX 045(741)4796

HP <http://www.syamisen.com/>